

四半期報告書

(第77期第1四半期)

株式会社加地テック

大阪府堺市美原区菩提6番地

電話 072(361)0881番

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社加地テック

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【事業等のリスク】	5
3 【経営上の重要な契約等】	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	9
3 【役員の状況】	9
第5 【経理の状況】	10
1 【四半期財務諸表】	11
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	21

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成21年8月7日

【四半期会計期間】 第77期第1四半期(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

【会社名】 株式会社加地テック

【英訳名】 KAJI TECHNOLOGY CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小 林 士 郎

【本店の所在の場所】 大阪府堺市美原区菩提6番地

【電話番号】 072 (361) 0881 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長兼経理部長 横 浜 淳 司

【最寄りの連絡場所】 大阪府堺市美原区菩提6番地

【電話番号】 072 (361) 0881 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長兼経理部長 横 浜 淳 司

【縦覧に供する場所】 株式会社加地テック東京支社
(東京都新宿区西早稲田二丁目20番15号高田馬場アクセス)
株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第1四半期 累計(会計)期間	第77期 第1四半期 累計(会計)期間	第76期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 6月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 6月30日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高 (千円)	1,364,104	1,181,028	7,736,975
経常利益 (千円)	138,324	120,949	856,185
四半期(当期)純利益 (千円)	80,308	68,449	489,466
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,440,000	1,440,000	1,440,000
発行済株式総数 (株)	17,180,000	17,180,000	17,180,000
純資産額 (千円)	4,537,712	4,868,468	4,932,083
総資産額 (千円)	7,483,828	8,049,974	8,971,436
1株当たり純資産額 (円)	267.95	287.57	291.32
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	4.74	4.04	28.91
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	8.00
自己資本比率 (%)	60.6	60.5	55.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	190,385	△719,499	1,369,886
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△83,358	468,686	△415,368
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△96,243	△138,356	△92,152
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,558,864	2,021,277	2,410,446
従業員数 (名)	181	193	180

- (注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 持分法を適用した場合の投資利益については、対象となる関連会社がないため記載を省略しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期会計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。
また、関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期会計期間において、関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	193 (19)
---------	----------

(注) 従業員数は、就業人員であり、臨時従業員数（アルバイト、パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含む）は、（ ）内に当第1四半期会計期間の平均雇用人員を外数で記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期会計期間における生産実績を製品別に示すと、次のとおりであります。

製品名	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
圧縮機	1,779,763	+17.8
繊維機械他	23,603	△89.5
合計	1,803,366	+3.9

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第1四半期会計期間における受注実績を製品別に示すと、次のとおりであります。

製品名	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
圧縮機	1,032,883	△64.9	3,280,867	△7.0
繊維機械他	14,886	△94.6	17,478	△95.1
合計	1,047,770	△67.4	3,298,346	△15.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期会計期間における販売実績を製品別に示すと、次のとおりであります。

製品名	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
圧縮機	1,160,052	+3.5
繊維機械他	20,976	△91.4
合計	1,181,028	△13.4

- (注) 1 輸出高の総額及び販売実績に対する輸出高の割合は次のとおりであります。

製品名	前第1四半期会計期間		当第1四半期会計期間	
	輸出高(千円)	割合(%)	輸出高(千円)	割合(%)
圧縮機	319,214	28.5	184,109	15.9
繊維機械他	206,419	85.0	260	1.2
合計	525,633	38.5	184,369	15.6

- 2 主要な輸出先別の割合は次のとおりであります。
当第1四半期会計期間 東アジア 58% 東南アジア 18% 中近東 12%
前第1四半期会計期間 東アジア 78% 東南アジア 13% 中近東 8%
- 3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第1四半期会計期間		当第1四半期会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
GOOD EQUIPMENT HONG KONG LIMITED	—	—	149,028	12.6
三菱化学エンジニアリング株式会社	900	0.1	148,000	12.5

- 4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第1四半期会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等及び、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当社の当第1四半期会計期間の売上高は前年同期比13.4%減の1,181百万円となりました。減少の主な要因は、圧縮機部門においては化学プラント向け圧縮機の出荷をメインとしてほぼ前期並みの売上高を維持できたものの、繊維機械部門において前年同期は中国向けにグラスファイバー用撚糸機の輸出がありましたが、当第1四半期は主な本体出荷がなく売上高が前年同期比209百万円減少したことによるものであります。

利益面に関しましては、売上高は1,181百万円で前年同期比13.4%の減収ではありましたが、高採算案件の売上増加により売上総利益は352百万円で前年同期比8.9%の増益、営業利益は販売費及び一般管理費の増加30百万円があり116百万円で同1.8%の減益、経常利益は120百万円で同12.6%の減益、第1四半期純利益は68百万円で同14.8%の減益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末の総資産は8,049百万円で前事業年度末に比べ921百万円減少しました。この主な要因は、有価証券の償還による減少500百万円と、現金及び預金が389百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末の負債は3,181百万円で前事業年度末に比べ857百万円減少しました。この主な要因は、支払手形の減少462百万円と、法人税等の支払による未払法人税等の減少334百万円によるものであります。

当第1四半期会計期間末の純資産は4,868百万円で前事業年度末に比べ63百万円減少しました。この主な要因は、配当金の支払い135百万円によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は60.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、2,021百万円で、前事業年度末に比べ389百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、減少した資金は719百万円であります（前年同期比909百万円減少）。この減少は主に、仕入債務の減少516百万円と、法人税等の支払い380百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、増加した資金は468百万円であります（前年同期比552百万円増加）。この増加は主に有価証券の償還による収入500百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は138百万円であります（前年同期比42百万円減少）。この減少は主に配当金の支払い124百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期会計期間の研究開発費の総額は21百万円であります。

なお、当第1四半期会計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社の当面の経営戦略としましては、従来当社が強みを発揮していたマーケットセグメントに加え、環境関連機器製造業者向けに需要が旺盛な特殊ガス用の高圧コンプレッサや、石油化学プラント用コンプレッサの製造・販売に経営資源を投入し業績を拡大していく所存です。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

平成20年秋以降の世界的金融・経済危機は当社の経営にも極めて深刻な影響を及ぼしており、短期的には当社の業績は後退せざるを得ないと予測されますが、平成21年度を初年度とする2ヵ年の中期経営計画において、以下の施策を確実に遂行し中長期的な経営基盤の拡充を図るとともに、将来の飛躍を目指します。

- (1) 老朽化設備の更新、コスト削減のための設備投資
- (2) 市場動向を踏まえた営業戦略の推進
- (3) 基礎技術・要素技術開発による既存製品の品質改善と技術競争力の強化、ならびに新製品開発による市場の拡大
- (4) 定期的な新卒採用と適宜必要なキャリア採用による人材の確保、社員教育制度の充実

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年8月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,180,000	17,180,000	株式会社大阪証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は 1,000株であります。
計	17,180,000	17,180,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月30日	—	17,180	—	1,440	—	1,203

(5) 【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年3月31日現在で記載しております。

① 【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 250,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,822,000	16,822	—
単元未満株式	普通株式 108,000	—	—
発行済株式総数	17,180,000	—	—
総株主の議決権	—	16,822	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式128株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社加地テック	大阪府堺市美原区菩提 6 番地	250,000	—	250,000	1.45
計	—	250,000	—	250,000	1.45

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月
最高(円)	210	199	220
最低(円)	184	187	192

(注) 株価は、株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)は、改正前の四半期財務諸表等規則に基づき、当第1四半期会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)は、改正後の四半期財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、また、当第1四半期会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	821,277	1,210,446
受取手形	766,510	875,406
売掛金	1,219,106	1,392,825
有価証券	—	500,031
製品	9,055	9,425
仕掛品	2,180,523	1,910,271
原材料及び貯蔵品	386,911	356,992
預け金	1,200,000	1,200,000
その他	272,521	327,289
貸倒引当金	△6,100	△6,900
流動資産合計	6,849,806	7,775,789
固定資産		
有形固定資産	※ 825,900	※ 824,820
無形固定資産	6,605	6,820
投資その他の資産	367,662	364,005
固定資産合計	1,200,168	1,195,646
資産合計	8,049,974	8,971,436
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,125,042	1,587,875
買掛金	259,577	318,852
短期借入金	197,500	205,000
未払法人税等	55,218	390,084
賞与引当金	63,480	180,000
受注損失引当金	8,400	10,800
その他	880,140	781,218
流動負債合計	2,589,359	3,473,830
固定負債		
退職給付引当金	435,825	412,729
役員退職慰労引当金	86,621	79,587
その他	69,698	73,205
固定負債合計	592,146	565,522
負債合計	3,181,505	4,039,352

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,440,000	1,440,000
資本剰余金	1,203,008	1,203,008
利益剰余金	2,258,597	2,325,586
自己株式	△41,984	△41,938
株主資本合計	4,859,621	4,926,656
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,847	4,736
繰延ヘッジ損益	—	690
評価・換算差額等合計	8,847	5,426
純資産合計	4,868,468	4,932,083
負債純資産合計	8,049,974	8,971,436

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	1,364,104	1,181,028
売上原価	1,040,404	828,615
売上総利益	323,700	352,412
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	68,906	63,308
賞与引当金繰入額	20,040	12,204
役員退職慰労引当金繰入額	3,696	7,034
その他の販売費及び一般管理費	112,309	153,225
販売費及び一般管理費合計	204,952	235,773
営業利益	118,747	116,638
営業外収益		
受取利息	—	2,159
厚生年金基金特別掛金返戻金	14,426	—
その他	6,406	3,499
営業外収益合計	20,833	5,659
営業外費用		
支払利息	1,195	1,187
その他	61	160
営業外費用合計	1,256	1,348
経常利益	138,324	120,949
税引前四半期純利益	138,324	120,949
法人税等	※ 58,015	※ 52,500
四半期純利益	80,308	68,449

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	138,324	120,949
減価償却費	12,984	20,291
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	12,929	23,096
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3,696	7,034
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,900	△800
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△73,700	△116,520
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△2,400
受取利息及び受取配当金	△2,355	△2,547
有価証券利息	△1,342	△1,117
支払利息	1,195	1,187
固定資産除却損	21	15
売上債権の増減額 (△は増加)	603,303	269,883
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△148,328	△299,800
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	16,328	51,244
仕入債務の増減額 (△は減少)	△306,571	△516,067
その他	49,732	101,057
小計	304,316	△344,493
利息及び配当金の受取額	2,357	2,774
有価証券利息の受取額	2,570	3,954
利息の支払額	△1,194	△1,177
法人税等の支払額	△117,665	△380,557
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,385	△719,499
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,546	△31,324
投資有価証券の取得による支出	△82,011	—
有価証券の償還による収入	—	500,000
その他の収入	1,199	80
その他の支出	—	△69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△83,358	468,686
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△7,500
長期借入金の返済による支出	△2,500	△2,500
リース債務の返済による支出	—	△4,071
自己株式の取得による支出	△547	△45
配当金の支払額	△93,195	△124,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96,243	△138,356
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	10,783	△389,169
現金及び現金同等物の期首残高	1,548,081	2,410,446
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,558,864	※ 2,021,277

【継続企業の前提に関する注記】

当第1四半期会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第1四半期会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

当第1四半期会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
(四半期損益計算書関係) 前第1四半期累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取利息」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第1四半期累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第1四半期累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取利息」は1,867千円であります。

【簡便な会計処理】

当第1四半期会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法 当第1四半期会計期間末の貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
2 棚卸資産の評価方法 当第1四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。
3 固定資産の減価償却費の算定方法 定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
4 経過勘定項目の算定方法 合理的な算定方法による概算額を計上する方法等によっております。
5 繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので前事業年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
1 税金費用の計算 税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額 2,512,534千円	※ 有形固定資産の減価償却累計額 2,499,528千円

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
※ 当第1四半期累計期間における税金費用については、四半期財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。	同左

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年6月30日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在)
現金及び預金 758,864千円	現金及び預金 821,277千円
預け金 800,000千円	預け金 1,200,000千円
現金及び預金同等物 <u>1,558,864千円</u>	現金及び預金同等物 <u>2,021,277千円</u>

(株主資本等関係)

当第1四半期会計(累計)期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期会計期間末
普通株式(株)	17,180,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期会計期間末
普通株式(株)	250,370

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月22日 定例取締役会	普通株式	利益剰余金	135,438	8.00	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第1四半期会計期間末(平成21年6月30日)

記載すべき事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第1四半期会計期間末(平成21年6月30日)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第1四半期会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当第1四半期累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

当社は、関連会社がないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
287.57円	291.32円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,868,468	4,932,083
普通株式に係る純資産額(千円)	4,868,468	4,932,083
普通株式の発行済株式数(株)	17,180,000	17,180,000
普通株式の自己株式数(株)	250,370	250,128
1株当たりの純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	16,929,630	16,929,872

2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1株当たり四半期純利益 4.74円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 —	1株当たり四半期純利益 4.04円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 —

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期純利益(千円)	80,308	68,449
普通株式に係る四半期純利益(千円)	80,308	68,449
普通株式の期中平均株式数(株)	16,935,719	16,929,630

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年 8 月11日

株式会社加地テック
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 日根野谷 正 人 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 黒 木 賢一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社加地テックの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第76期事業年度の第1四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社加地テックの平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年8月7日

株式会社加地テック
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 日根野谷 正人 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 黒木 賢一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社加地テックの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第77期事業年度の第1四半期会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社加地テックの平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。